

全国中学校スケート大会に代わる中学生の全国大会開催について

スポーツ部 スポーツ課

I 全国中学校スケート大会について

1 概要

(公財)日本中学校体育連盟が主催する「全国中学校体育大会」のひとつとして昭和56(1981)年に第1回が開催され、令和8(2026)年度で47回目を迎える歴史ある大会である。

スピードスケート競技は中学生年代のNo.1を決める大会であり、上位大会への出場や強化選手指定の基準にもなっている。

フィギュアスケート競技は荒川静香さん、羽生結弦さん、宇野昌磨さんなどオリンピック等で活躍する選手が歴代の優勝者に名を連ね、世界への登竜門となっており、中学生年代が目標とする大会である。

本市では「オリンピックレガシーの継承」「オリンピック施設の活用」「地域経済への波及」を目的とし、また、「スケートの聖地」を目指し、(一財)地域活性化センターが行っていた「スポーツ拠点づくり推進事業※1」に応募し、平成19年(2007)年度から10年間の継続開催を決定した。同事業の終了後も大会の開催を継続し、令和8(2026)年度の47回大会まで20年間継続して大会を開催している。

2 主催・共催 等

主 催：(公財)日本中学校体育連盟 (公財)日本スケート連盟 長野市 長野市教育委員会

共 催：長野県教育委員会

事務局：全国中学校スケート大会長野市実行委員会事務局（長野市スポーツ部スポーツ課内）

3 全国中学校体育大会からの除外

(公財)日本中学校体育連盟は、令和9(2027)年度から実施する「全国中学校体育大会の規模縮小」に伴い、スケートを含む9競技※2を「全中」実施競技から除外することを決定している。

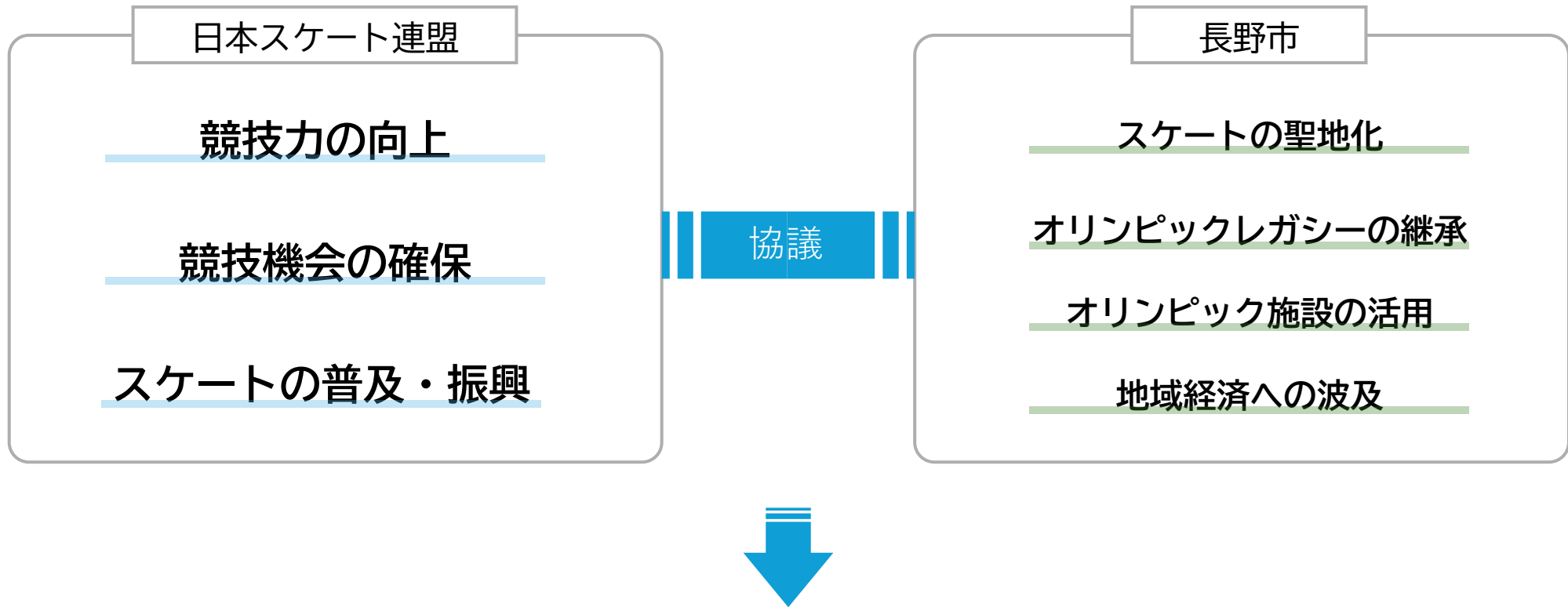
このため「全中」としての大会開催は、令和8(2026)年度に本市で行われる第47回大会が最後となる。

※1 小・中・高校生が参加する各種スポーツの全国大会を継続的に開催することで、全国各地に青少年があこがれ、目標とするスポーツ毎の拠点を形成し、スポーツの振興と地域の再生を推進する事業

※2 スケート、スキー、アイスホッケー、水泳、ハンドボール、体操、新体操、ソフトボール男子、相撲

Ⅱ 今後の方針について

全国中学校スケート大会の代替となる中学生の全国大会開催が強く求められている



長野市において全国中学校スケート大会の代替となる中学生の全国大会を継続開催する

Ⅲ 令和9年度以降の大会について(案)

1 大会名称

全国中学生スケート選手権大会

2 大会趣旨

中学校生徒に広くスケート競技実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図るとともに、中学校生徒相互の親睦を図るもの

3 主催 等

主 催：（公財）日本スケート連盟 長野市

後 援：（公財）日本中学校体育連盟

事務局：全国中学生スケート選手権大会実行委員会事務局（長野市スポーツ部スポーツ課内）

4 会場

【スピードスケート】

長野市オリンピック記念アリーナ（エムウェーブ）



【フィギュアスケート】

長野市若里多目的スポーツアリーナ（ビッグハット）



5 運営方針

- 全国中学校スケート大会の後継大会として、大会回数及び大会記録を継承する
（令和9年度の初回大会は、「第48回全国中学生スケート選手権大会」として開催）
- 参加資格等は全国中学校スケート大会を踏襲予定

IV 今後のスケジュールについて

今後のスケジュール

時 期	内 容	備 考
8月～	新大会に向けた準備	
令和9(2027)年1月	第47回全中スケート大会開催（令和8年度大会）	中体連大会（終了）
2月～	新大会の運営に向けた最終調整	
令和10(2028)年2月	第1回新大会開催	